

MAGNIA 導入支援サービス編 システム構成ガイド



表示の希望小売価格は税別価格になります。 商品の価格には、据付調整費、使用済み商品のお引取り費は含まれておりません。 本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず製品添付の取扱説明書をよくお読みください。

2018 年 7月 Revision 5.04 東芝デジタルソリューションズ株式会社

目次

谱	7	±	4座	ш.		* -	اسا	+
꾞.	ハ	文	悷	᠊ᢧ᠂	-c	ころ	2	גו

導入支援サー	ービス	スとは		4
	1	導入支	支援サービスの種類と内容	4
		1.1	導入支援サービスについて	4
		1.2	導入支援サービス以外のサービスについて	5
		1.3	サービスの範囲	6
		1.4	サービスの対象製品	6
		1.5	メモリ仕様制限について	6
		1.6	最小ブートパーティションサイズとメモリサイズ	7
		1.7	サービスの購入から納品までの流れ	9
	2	仕様		10
		2.1	RAID 設定カスタマイズサービス	10
		2.2	カスタムインストールサービス	12
	3	導入支	支援サービスツールの入力手順	14
		3.1	構成支援ツールでの必須事項と導入支援サービスツールへの移行	14
		3.2	発注情報等の入力	15
		3.3	RAID の構築	16
		3.4	ホットスペアの設定	18
		3.5	基本パーティションの設定	18
		3.6	追加パーティションの設定	19
		3.7	追加ドライブ装置設定	19
		3.8	Windows の基本設定	20
		3.9	LAN アダプター アドレス設定	21
		3.10	LAN アダプター チーミングの設定	22
		3.11	サーバーの役割・機能	24
		3.12	バンドルソフトウェアの設定	25
		3.13	構成設定入力の確認	26
		3.14	構成設定入力の印刷(確認用)	27
		3.15	製造指示用ファイルの作成	28
		3.16	設定の一時保存ファイルを作成する	
		3.17	設定の一時保存ファイルを読込む	31
		3.18	ボタンの機能について	32
	4	ドライ	ブベイ番号	33
リファレンス				34
	補	足事項全	全般	34
	内	蔵ドライ	ブ補足事項	36
	ネ	ットワーク	クについて	37
	バ	ンドルソ	フトウェアについて	
	サ	ービス仕	と様について	
	免	責事項		41

OSについて

導入支援サービスがサポートする OS の種類については次のとおりです。

OS の種類	
2012	Windows Server® 2012
2012R2	Windows Server® 2012 R2
2016	Windows Server® 2016

導入支援サービスとは

導入支援サービスとは、IA サーバーを導入するお客様の作業時間短縮と導入費用削減を実現するサービスです。お客様の指定する構成に設定して出荷する2種類のサービスを提供しています。

本サービスを利用するには、指定の「導入支援サービスツール」に希望の構成内容を入力し、発注時に 「製造指示用ファイル」を提出していただく必要があります。

導入支援サービスツールの入力は、構成支援ツールの入力後に行います。

これまでの導入支援サービスは、構成設定シートへ機器設定を直接ご記入いただいており、想定されている機器構成が可能か否かを事前にご検討いただいている必要がありました。

今回より、構成支援ツールに設定いただいた機器情報から導入支援サービスツールに設定可能な項目 を表示します。RAID 構成やディスクの混在などの条件を機械的に提示しますので、構成設定の入力時 に構成の可否が明確になります。

導入支援サービスをご利用になるときは、当社担当営業までお問い合わせください。 RAID 設定カスタマイズサービス、カスタムインストールサービスの詳細を設定する「導入支援 サービスツール」は、東芝デジタルソリューションズ社内専用のツールです。 お客様がご覧いただくことはできません。

1 導入支援サービスの種類と内容

1.1 導入支援サービスについて

「導入支援サービス」はデフォルト設定や RAID セレクト 0/1/5 と異なる RAID を設定する場合に選択します。

「導入支援サービス」には次の2種類があります。

発注には「製造指示用ファイル」が必要です。注文書と合わせて提出してください。

RAID 設定カスタマイズサービス(形番: ACR3774B, ACR3774C)

製造指示用ファイルの内容に合わせて RAID の構築とシステムパーティション設定を行います。 ACR3774C では StarterPackの更新も行います。

- ※ システムパーティションの設定は、OS セレクト手配時のみ実施します。
- ※ 形番により対象となる本体装置が異なります。詳しくは、2.1.1 サービス形番と価格 を参照してください。

・カスタムインストールサービス(形番: ACR3775B, ACR3775C)

Windowsをプレインストール出荷する際に、RAIDの構築とシステムパーティション設定、Windowsの設定、バンドルソフトの設定、を製造指示用ファイルの内容に合わせて行います。

ACR3775C では StarterPack の更新も行います。

- ※ サーバー本体の仕様により、対応していない場合があります。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
- ※ 形番により対象となる本体装置が異なります。詳しくは、2.2.1 サービス形番と価格 を参照してください。

1.2 導入支援サービス以外のサービスについて

導入支援サービス以外にもサーバー出荷時に RAID 構成をする下記のサービスを用意しています。 これらのサービスでは対応できないようなときに、カスタムインストールサービスまたは RAID 設定カスタ マイズサービスを選択してください。

詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

・無償の RAID 構築サービス(形番:なし)

デフォルト設定はサーバー本体やそのドライブ搭載台数、RAID コントローラーによって異なります。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。 デフォルト構成以外の RAID を設定する場合は、RAID セレクト 0/1/5 を選択してください。

http://www.toshiba-sol.co.jp/pro/magnia/support/raid_cust/ss_raid.htm

•RAID セレクト 0(形番: ACR3771A)

接続された HDD すべてで RAID0 を構築します。最大で 8 台まで対応します。9 台目以降は RAID 構築 しません。

•RAID セレクト1(形番: ACR3772A)

2 台の HDD で RAID1 を構築します。残りは 8 台までスペア設定(ホットスペア)になります。9 台目以降 は RAID 構築しません。

•RAID セレクト 5(形番: ACR3773A)

3 台の HDD で RAID5 を構築します。残りは 8 台までスペア設定(ホットスペア)になります。9 台目以降 は RAID 構築しません。

※ オンボード RAID (ソフトウェア RAID)および RAID5 非対応の RAID コントローラ(RAID 0/1)[TN8103-205T], RAID コントローラ(2GB, RAID 0/1)[TN8103-206T], RAID コントローラ(2GB, RAID 0/1)[TN8103-210T], RAID コントローラ(RAID 0/1)[TN8103-189T], RAID コントローラ(RAID 0/1)[TN8103-192T], RAID コントローラ(RAID 0/1)[TN8103-192T], RAID コントローラ(RAID 0/1)[TN8103-195T], RAID コントローラ(1GB, RAID 0/1)[TN8103-176T], RAID コントローラ(0GB, RAID 0/1)[TN8103-188T]では RAID セレクト 5 を選択できませんので、RAID5 対応の RAID コントローラーを手配してください。

補足事項

RAID セレクトでは、異種ドライブの混在はできません。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

1.3 サービスの範囲

導入支援サービスの設定範囲は以下の通りです。

設守頂日	RAID 設定カスタ	マイズサービス	カスタムインストールサービス		
設定項目	ACR3774B	ACR3774C	ACR3775B	ACR3775C	
RAID 構築	0		0		
システムパーティション設定	O*1*3		0		
追加パーティション設定 光ディスクドライブ設定	_		0		
Windows の設定 -ネットワーク設定	_		0		
バンドルソフトウェアの設定 -ESMPRO/SAS -RAID ユーティリティ など	_		0	-*2	
StarterPack の更新	- O*1		_	0	

*1:OS セレクトの Windows プレインストール時に実施します。

*2:すべてのバンドルソフトウェアが必須でインストールされ、設定はできません。

*3: Windows Storage Server モデルで実施します。

1.4 サービスの対象製品

0	:選択可	-:選択不可
---	------	--------

出荷形態サービス	Windows プレインストール (OS セレクトあり)	OS 無し(OS セレクトなし) および Windows Storage Server モデル
RAID 設定カスタマイズサービス	0	O*4
カスタムインストールサービス	0	_

*4:RAID 設定のみ実施します。 Windows Storage Server モデルではシステムパーティション設定も実施します。

1.5 メモリ仕様制限について

対応できるメモリ容量は OS およびサーバー本体の仕様によって異なります。サーバー本体のサポート OS および最大メモリ容量はサーバー本体のシステム構成ガイドやスペック表を参照してください。

1.6 最小ブートパーティションサイズとメモリサイズ

最小ブートパーティションサイズは、サーバー本体に搭載するメモリサイズに応じて異なります。 ただし、Windows Storage Server の場合には 51GB 固定となります。

-Windows Server 2012

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-688MB	3GB 以下
50GB-688MB	7GB 以下
60GB-688MB	11GB 以下
80GB-688MB	19GB 以下
100GB-688MB	27GB 以下
150GB-688MB	47GB 以下
200GB-688MB	67GB 以下
300GB-688MB	107GB 以下
600GB-688MB	108GB 以上

Windows Server 2012 のパーティションサイズは、回復パーティションサイズ(300MB), EFI システムパ ーティションサイズ(260MB)およびシステム予約済みパーティション(128MB)を引いた値となります。なお、 システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには表示され ません。

-Windows	Server	2012 R2
----------	--------	---------

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-688MB	4GB 以下
50GB-688MB	8GB 以下
60GB-688MB	12GB 以下
80GB-688MB	20GB 以下
100GB-688MB	28GB 以下
150GB-688MB	48GB 以下
200GB-688MB	68GB 以下
300GB-688MB	108GB 以下
600GB-688MB	228GB 以下
1TB-688MB	229GB 以上

Windows Server 2012 R2 のパーティションサイズは、回復パーティションサイズ(300MB), EFI システムパーティションサイズ(260MB)およびシステム予約済みパーティション(128MB)を引いた値となります。 なお、システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには 表示されません。

-Windows Server 2016

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
60GB-566MB	9GB 以下
80GB-566MB	17GB 以下
100GB-566MB	25GB 以下
150GB-566MB	45GB 以下
200GB-566MB	65GB 以下
300GB-566MB	105GB 以下
600GB-566MB	225GB 以下
1TB-566MB	395GB 以下
2TB-566MB	396GB 以上

Windows Server 2016のパーティションサイズは、回復パーティションサイズ(450MB), EFIシステムパ ーティションサイズ(100MB)および Microsoft 予約パーティション(16MB)を引いた値となります。なお、 Microsoft 予約パーティションは、ディスクの管理には表示されません。

1.7 サービスの購入から納品までの流れ

本サービスの購入から出荷までの手順を示します。

構成支援ツールへ	ወ入力
	サーバー本体の構成を入力します。
	構成支援ツール URL:
	http://www.cn-d.toshiba.co.jp/MAGNIA/
	この URL は東芝デジタルソリューションズ社内専用のため、お客様はご覧になれ
\blacksquare	
•	詳細は、当社担当営業へお問い合わせください。
導入支援サービス	ツールへの入力
	構成支援ツールの入力後に導入支援サービスツールを入力します。
	導入支援サービスツールは、構成支援ツールに入力された構成に従って設定可
	能な項目を表示します。
	導入支援サービスツールで設定ができない項目は、構成支援ツールの入力内容
. ↓	を確認してください。
構成シートの発行	庁(発番・発注)
	製造指示用ファイルを発行します。
	製造指示用ファイルと注文書を同時に提出してください。
	製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないこと
. ↓	があります。ご了承ください。
組立・インストール	・出荷
	製造指示用ファイルの内容に応じて MAGNIA を設定・出荷します。
 納品	

補足事項

製造指示用ファイルは必ずサーバー本体の発注と同時に提出してください。
 製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないことがあります。
 あらかじめご了承ください。

2 仕様

2.1 RAID 設定カスタマイズサービス

2.1.1 サービス形番と価格

サービス名称	形番	希望小売価格
RAID 設定カスタマイズサービス	ACR3774B	22,500 円
RAID 設定カスタマイズサービス	ACR3774C	33,500 円

各形番の対象となる本体装置は以下のとおりです。 ACR3774B: MAGNIA C1300f/T1340f/R1310f ACR3774C: MAGNIA R3520e/R3510e/R3320f/R3310f/T3350f

2.1.2 サービスの範囲(仕様)

本サービスで設定を指定できる対象は、構成支援ツールで設定した構成の範囲です。

希望される設定を導入支援サービスツールに入力してください。

本サービスにおける設定内容は以下の通りです。ただし、Windows Storage Server モデルの場合は、Windows の基本情報の設定はできません。

内蔵ドライブ数	構成支援ツールに入力した数量までの設定ができます。
	詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
ホットスペア	設定できます。
RAID レベル	0,1,5,6,10,50,60 から選択できます。
	本体装置および RAID コントローラーの種類により、構築可能な RAID レベルや HDD 台数が異なります。
	詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
Windows の基本情報	「OS セレクト」を手配したときのコンピューター名, ワークグループおよびパスワー ドは固定です。パスワードは据付後に変更してください。 コンピューター名:MAGNIA
	ンスワート :IMag2A 設定したい場合は、「カスタムインストールサービス」を選択してください。
パーティション	「OS セレクト」を手配しない場合は、パーティション設定は行われません。 「OS セレクト」を手配した場合は、ブートパーティション設定のみ行います。 Windows Storage Server モデルの場合は、ブートパーティションを 51GB に設定
	します。

補足事項

- コンピューター名やワークグループ,パスワードを設定したい場合は、「カスタムインストールサービス」を選択してください。
- 追加パーティションや光ディスクドライブの設定をしたい場合は、「カスタムインストールサービス」を選択してください。

2.1.3 サービスの購入条件

導入支援サービスツールに設定項目を入力のうえ、MAGNIA シリーズ本体と同時に注文してください。

- ※ サーバー本体を購入した後に本サービスの適用はできません。
- ※ RAID 設定カスタマイズサービスは、サーバー本体1台につき、製造指示用ファイルを1部を提出し てください。

2.2 カスタムインストールサービス

本サービスは、Windows をプレインストール出荷する際に選択できます。

2.2.1 サービス形番と価格

サービス名称	形番	希望小売価格
カスタムインストールサービス	ACR3775B	60,000 円
カスタムインストールサービス	ACR3775C	60,000 円

各形番の対象となる本体装置は以下のとおりです。

ACR3775B: MAGNIA C1300f/T1340f/R1310f ACR3775C: MAGNIA R3520e/R3510e/R3320f/R3310f/T3350f

2.2.2 サービスの範囲(仕様)

本サービスで設定を指定できる対象は、構成支援ツールで設定した構成の範囲内です。 希望される設定を導入支援サービスツールに入力してください。 本サービスにおける設定内容は以下の通りです。

内蔵ドライブ数	構成支援ツールに入力した数量までの設定ができます。
	詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
ホットスペア	設定できます。
RAID レベル	0,1,5,6,10,50,60 から選択できます。
	本体装置および RAID コントローラーの種類により、構築可能な RAID レベルや HDD 台数が異なります。
	詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
Windows の基本情報	コンピューター名, ワークグループおよびパスワードを指定することができます。 初期値は下記のとおりです。 コンピューター名:MAGNIA
	ワークグループ:WORKGROUP
	パスワード :!Mag2A
パーティション	ブートパーティションおよび4つまでの追加パーティション設定ができます。
追加ドライブ	光ディスクドライブの設定ができます。
LAN アダプター	オンボードLANまたはLOMカードLANに加えて、オプションLANカード上にあるPort のうちの 4 つまでを拡張 LAN として設定することができます。 チーミングの設定もできます。
サーバーの役割・機能	Windows のネットワークサービスの設定ができます。
ハンドルソフトウェア 	ハンドルソフトウェアの設定かできます。ただし、ACR3775C ではすべてのバンドルソ フトウェアが必須インストールとなり、設定はできません。

2.2.3 サービスの購入条件

導入支援サービスツールに設定項目を入力のうえ、MAGNIA シリーズ本体と同時に注文してください。

- ※ サーバー本体を購入した後に本サービスの適用はできません。
- ※ カスタムインストールサービスは、サーバー本体1台につき、製造指示用ファイルを1部を提出してく ださい。

3 導入支援サービスツールの入力手順

3.1 構成支援ツールでの必須事項と導入支援サービスツールへの移行

導入支援サービスの「製造指示用ファイル」を作成するためには、下記の点を構成支援ツールへ事前に入力して おく必要があります。

減定サービス ダレッテンホルを取っ だ用のテンオルを取っ た用の1 9000と考えたMAD を組み、特別のHI04スペア (注意) FADD 9000とデストルウェビス アスタムインストールウェビス FADD 9000とデストルウェビス FADD 9000 デストルウェビス FADD 9000 900 デストルウェビス FADD 9000 9000 デストルウェビス FADD 9000 デストルウェビス FADD 9000 デストルウェビス FADD 9000 デストルウェビス FADD 9000 9000 デストルウェビス FADD 9000 デス FADD 9000 デス FAD 9000 デス FAD 9000 デス FAD 9000 デス FAD	構成支援ツールに、提供するシステムの情報を入力しま す。 「設定サービス」の「RAID 設定カスタマイズサービス」ま たは「カスタムインストールサービス」を選択します。
このないついますでであれのできねみ、特別の小のはなスペアは空い 「かつ」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	
FOS セレクト」 OS Windows Server 2012 Datacenter ブレインストール(Windows Server 2012 メディア付) Windows Server 2008 R2 Standard(SCAL(f))プレインストール Windows Server 2008 R2 Standard ジレインストール Windows Server 2012 Standard ジレインストール(Windows Server 2012 メディア(f)) Windows Server 2012 Standard ジレインストール Windows Server 2012 メディア(f) Red Hat Enterprise Linux Server Standard (仮想化グスト数1)	「カスタムインストールサービス」は、構成支援ツールの 「OS」で「OS セレクト」を手配しておく必要があります。 「OS セレクト」を手配しない場合や「Linux バンドルオプシ ョン」を手配した場合は、「RAID 設定カスタマイズサービ ス」のみ選択できます。
構成リスト ← 同一形形をまとめて表示 C 構成に沿った表示 □ フォーキャスドシステム用デーク生成 と等体括合計(化社): [使考引)1.080.480 様常体括合計(化社): [使考引)1.080.480 様常体合計(化社): [使考引)1.080.480 様常体合計(化社): [使考引)1.080.480 様常体合計(化社): [使考引)1.080.480 様常体合計(化社): [使考引]1.080.480 様常体合計(化社): [使考引]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様常体合計(化社): [使考]1.080.480 様式表示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示示	「RAID 設定カスタマイズサービス」または「カスタムインス トールサービス」を選択すると、「導入支援サービス 構成 作成」ボタンがアクティブになります。アクティブになった ボタンをクリックし、導入支援サービスツールへ移行しま す。

構成支援ツールの入力は、導入支援サービスなど発注品と異なる品番を指定しないこと 間違った品番を指定した場合、発注品と異なる内容の製造指示用ファイルが作成されます。 間違った製造指示用ファイルにて発注された場合、製造指示用ファイルの再提出の他、ご希望 の納期に沿えないことがあります。あらかじめご承知ください。

補足事項

導入支援サービスツールは、構成支援ツールの情報を使って設定を行います。
 また、導入支援サービスツールは、設定することが可能な項目のみを表示します。
 設定ができない、項目が表示されない場合は、構成支援ツールの内容を確認してください。

3.2 発注情報等の入力

導入支援サービスツールには、「サービス仕様書」に記載された内容をご確認のうえ、ご記入ください。

MAGNIA ***** カスタムインストールサービス 構成作成 サービス仕様書 サービス仕様書) ポシックソックすると、別ウィンドウでホサービスの仕様が表示されます。 サービス仕様書があったき、内白に同意いただける場合のみ、ホツールを使用できます。 回覧する	設定画面を表示します。 [サービス仕様書]をクリックし、記載事項をよく読み、サ ービス内容に同意される場合は「同意する」をチェックしま す。 同意しない場合は、[このウィンドウを閉じる]をクリックし て導入支援サービスツールを終了します。
このウィンドウを閉じる	
現計価額 - <th>「JOB-項番(本体項番号)」は、発注時に情報を記入して ください。</th>	「JOB-項番(本体項番号)」は、発注時に情報を記入して ください。
28日2日第2日 19月1日 - 19月1日 - 19月11日 - 19月110000000000000000000000000000000000	│「担当営業」」担当 SE」には所属、氏名、電話番号、メー │ ルアドレスを記入してください。
#0 Mise 5.6 : TEL : E-mail :	本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくこ とがあります。
预存 名	

JOB-項番(本体項番)	発注時の情報を入力してください。
台数	導入支援サービスツール(製造指示用ファイル)で指定できるサーバー本体の数は 「1 台」です。
担当営業	所属、氏名、電話番号、メールアドレスを入力してください。 ご署名いただきました場合、サービス仕様に同意したものといたします。 本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくことがあります。
担当 SE	所属、氏名、電話番号、メールアドレスを入力してください。 ご署名いただきました場合、サービス仕様に同意したものといたします。 本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくことがあります。
顧客名	最終ユーザ様のお名前を入力してください。 製造指示用ファイルのファイル名や JOB 番号などの照合に使用します。

3.3 RAIDの構築

RAIDigiz 歴史 構成の ARD0 ARD0 RAID0 RAID10 RAID10	構築する RAID タイプを選択します。 構築できる RAID タイプはサーバー本体、RAID コントロ ーラーにより異なります。詳細についてはサーバー本体 のシステム構成ガイドを参照してください。	
RAIDI放ビ 「「協理ディスク」RAID10 変化液 水道水 RAID1ヴルーブ0 第 日 日 ロ ジルーブ0 RAID1ヴルーブ1 RAID1ヴルーブ1 RAID1ヴルーブ2	詳細設定を行います。 「RAID10」を例に進めます(RAID1 でミラーリングした 4 組をストライピング(RAID0)する)。	
● 論理ディスク地を確定する RAIDI数定 ● 編型ディスク地を確定する ● 編型ディスク地を確定する RAIDI数定 第AIDI50 ● 編型ディスク地を確定する	「未選択」でドライブを指定し、[←]をクリックするとドライ ブが「選択済」へ移動します。設定できるグループの「←」 がアクティブになります。必要な数だけ繰り返します。 「選択済」のドライブを指定し、[→]をクリックするとドライ ブは「未選択」へ移動します。	



3.4 ホットスペアの設定

■ ホルトスペア ● GLB-HS (Gubbal Hotspare) ● DED-HS (Gubbal Hotspare) → Hotspare)	ホットスペアを設定する場合は、「ホットスペア」をチェックします。 共用ホットスペアを設定する場合には「GLB-HS」を選択します。 RAID 構築と同じ要領でディスクを「未選択」から「選択済」 へ移動します。 設定が終わったら、「ホットスペアを確定する」をチェックして情報を確定してください。
 図ホットスペア ▼ GLB-HS (Bbbal Hotspare) DED-HS (Dedicated Hotspare) ディスク LU0 LU1 LU2 LU3 LU3<th>専用ホットスペアを設定する場合には「DED-HS」を選択 し、対象とする論理ディスクの番号をチェックします。 設定が終わったら、「ホットスペアを確定する」をチェックし て情報を確定してください。</th>	専用ホットスペアを設定する場合には「DED-HS」を選択 し、対象とする論理ディスクの番号をチェックします。 設定が終わったら、「ホットスペアを確定する」をチェックし て情報を確定してください。

GLB-HS	共用ホットスペア(Global Hotspare)の略です。 このホットスペアは 1 枚の RAID コントローラー全体のホットスペアとして機能します。
DED-HS	専用ホットスペア(Dedicated Hotspare)の略です。 このホットスペアは、特定の RAID グループ専用として機能します。

3.5 基本パーティションの設定

基本パーティジョン設定 目前設定 ブートパーティジョン シジアはした予約時期時間の00000000 GB 目最大容量 第 メジアはした予約時期時間の00000000000000000000000000000000000	基本パーティション設定を行います。 任意の値を設定する場合は「自動設定」のチェックを外 し、任意の値を入力してください。 論理ディスク 0 の全領域を割り当てる(未割当領域をなし にする)場合は「自動設定」のチェックを外し、「最大容量」 をチェックしてください。
	 設定が終わったら、「基本パーティション設定を確定する」 をチェックして情報を確定してください。

以降の項目は、「カスタムインストールサービス」の場合にのみ設定します。

3.6 追加パーティションの設定

┌─ 🗵 追加パーティショ	ン設定				
論理ディスク 論理ディスク0 ↓	ドライブ文字 D	パーティションサイズ 300 GB 「残り全て	ファイルシステム NTFS	パーティションタイプ プライマリー 💽	確定
未設定	- 🗸	GB □ 残り全て	NTFS 💽	751マリ 💽	
未設定		GB I 残り全て	NTFS 💌	フライマリ 🔽	
未設定		GB F 残り全て	NTFS 💌	プライマリ	
※選択した14種ディスクロ	の残り全領域を創り組	皆てる場合は、「残り全て」をチェックして	でたおい。		

追加パーティション設定をする場合は、「追加パーティション設定」をチェックします。

設定する論理ディスクを指定し、詳細設定を行います。 選択した論理ディスクの残り全領域を割り当てる(未割当 領域をなしにする)場合は「残り全て」をチェックしてください。

追加パーティションは4つまで設定できます。入力が完了 したら設定した論理ディスクの「確定」をチェックします。

論理ディスク	論理ディスク0~3を設定してください。
ドライブ文字	「C」ドライブ以外の「D」~「Z」を設定してください。 その他のドライブ(DVD 装置など)で使用している文字は設定できません。
パーティションサイズ	パーティションサイズを入力してください。 選択した論理ディスクの残り全領域を割り当てる(未割当領域をなしにする)場合は「残 り全て」をチェックしてください。「残り全て」をチェックすると、残容量値を自動で入力し ます。
ファイルシステム	NTFS, FAT32, ReFS の中からいずれかを選択してください。
パーティションタイプ	プライマリパーティション、拡張パーティションのどちらかを選択してください。 設定に関する注意事項については、内蔵ドライブ補足事項を参照してください。

3.7 追加ドライブ装置設定

追加ドライブ装置設定 装置 ドライブ文字 確定 DVD-ROM装置 (SATA接続) ■	追加ドライブの設定を行います。
<i>追加ドライブ装置設定</i>	ドライブ文字は、設定するドライブ文字を選択します。 他のドライブで使用している文字は設定できません。
追加ドライブ装置設定 装置 ドライブ文字 DVD-ROM装置 SATA接続) E ▼	設定が終わったら、「確定」をチェックして情報を確定して ください。

ドニノゴナウ	「C」ドライブ以外の「D」~「Z」を設定してください。
	追加パーティションで使用している文字は設定できません。

3.8 Windows の基本設定

Windows基本意定 12ビューター名 Administrator /12ワード MAGNIA ワークグループ名 WORKGROUP MAGNia MORKGROUP	Windowsの基本設定を行います。 「コンピューター名」などを変更する場合は、「自動設定」 のチェックを外し、任意の文字を入力します。 文字数の制限と使用できない文字(記号等)があります。
	設定が終わったら、「Windows 基本設定を確定する」をチェックして情報を確定してください。

コンピューター名	コンピューター名を入力します。 指定しない場合は「MAGNIA」が設定されます。 入力できる文字は半角英数字で 15 文字までです(大文字、小文字の区別はありません)。
	Administrator(管理者)のパスワードを設定します。
	「自動設定」のパスワードは「!Mag2A」です。
Administrator パスワード	「個別設定」する場合は「自動設定」のチェックを外し、パスワードを入力します。入力 できる文字に制約があります。
	ただし「administrator」は含みません(大文字小文字とも)。
	※ユーザーアカウント名またはフルネームに含まれる 3 文字以上連続する文字列 は使用せず、長さ6文字以上で英大文字、英小文字、数字、記号(!,\$,#,%など)のうち 3 種を含むように設定します。
ワークグループ	ワークグループ名を入力します。
	指定しない場合は「WORKGROUP」が設定されます。
	入力できる文字は半角大文字のみで 15 文字までです。
	(注意)コンピューター名と同じにすることはできません。

3.9 LAN アダプター アドレス設定

ーLANアダプター アドレス設定 ※LANアダプター チーミングのパンパーに追加するLANは、ここでは設定しないでください。 LANアダプターの設定を行う場合は、設定するLANをチ - - オンボーFLAN1-----ェックします。 □ オンボーFLAN2 = LAN アダプターチーミングのメンバーに追加する LAN は、ここでは設定しないでください。 □ 拡張LAN2 ーLANアダプター アドレス設定 ※LAIPダブターチーミングのメンバーに建築するLANIE、ここでは設定しないでくたあい オンボード LAN1 を例に設定します。 アオンボードLANI
 Pv4アドレスを自動的に取得する 必要な項目を設定してください。 - 「次のPV4アドレスを使う-設定が終わったら、「オンボード LAN1 を確定する」をチェ PPFDA ックして情報を確定させてください。 サブネット マスク ● DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する ー C 次のDNSサーバーのアドレスを使 オンボード LAN2 以降や拡張 LAN を設定するときは、オ 優先 DNS ワーパー ンボード LAN1 と同じ手順で設定してください。 代替 CNS サーバー - F Warsアドレスを指定-優先 Was サーバ 代替 Was サーバ □ オンボードLAN1を確定する Т - - - - - FLAN2-

オンボード LAN または LOM カード LAN 拡張 LAN	設定するLANをチェックします。図はオンボードLAN1を例にしていますが、他のLAN も同様です。 オンボードLANまたはLOMカードLANに加えてオプションLANカード上にある4つ までの Portを拡張LANとして設定することができます。オンボードLANを搭載する 機種とLOMカードLANを搭載する機種とがあります。 例) オプションLANカード(4ch)が2枚のとき、LANは合わせて8chですが、拡張LAN
	として指定できるのは 8ch のうら 4ch のみぐす。 IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP) する場合は [IPv4 アドレスを自動的に取得す
IPv4 アドレス設定	a」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を設定してください。
	注意)IPv6 は設定できません。
DNS サーバーアドレス	DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を設 定してください。
	注意)IPv6 は設定できません。
WINS アドレスを設定	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。

3.10 LAN アダプター チーミングの設定

 ✓ LAN7ダブター チーミング設定 チーム名称 ×ンパトアダブター 「オンボードLANI 「オンボードLAN2 」 拡張LAN1 」 拡張LAN2 	LAN アダプターチーミング設定をする場合は、「LAN アダ プター チーミング設定」をチェックします。 文字数の制限と使用できない文字(記号等)があります。 チームを設定します。選択してください。
チーミング モード スイッチに依存しない 負荷分散モード アドレスのハッシュ スタンバイ アダブター なし (全てのアダプターがアクティブ)	必須項目です。 必ず設定してください。
P投充 C Pwa7FLJZ着自動12取得する C Xo0Pw47FLJZ着使う III IIII IIII IIII IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	IPv4 アドレスを自動的に取得する場合は、「IPv4 を自動 的に取得する」をチェックします。 IPv4 アドレスを指定する場合は、「次の IPv4 アドレスを使 う」をチェックし、アドレスを指定してください。
 C DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する C 次のDNSサーバーのアドレスを使う 優先 DNS サーバー 代替 DNS サーバー 	DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、 「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェッ クします。 DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックし、アドレスを指定し てください。
WINS7ドレスを指定 優先 WDS サーバー 代替 WDS サーバー 代替 WDS サーバー 「LAN7ダブター チージグ酸淀を確定する	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指 定」をチェックます。 アドレスを指定してください。
図 WDN57ドレスを指定 億先 WDN5 サーバー 代替 WDN5 サーバー 代替 WDN5 サーバー 「 「 IN779プター チージング設定を確定する	設定が終わったら、「LAN アダプター チーミング設定を 確定する」をチェックして情報を確定してください。

メンバーアダプター チームを観むしAN をチェックします。. 注意) 販送達度が導なる PON を選択することはできません。 何れかを選択します。爆炸は「スイッチに依存しない」です。 ・静的チーミング スイッチ症体存モード。 あらかじめ、スイッチとコンビュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを 識別する必要があります。. メーキング スイッチ症体存モード。 あらかじめ、スイッチとコンビュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを 識別する必要があります。. スイッチ症状存モード。 ・スイッチ症体存モード。 レスクリデ症体存モード。 レスクリデ症体存モード。 レスクリテ体存モード。 LACP と使って勤約にリンクの選別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での爆車は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 での場車は「野切」です。 ・アドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割し当てきす。. パケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が行つ パケットを、使用可能なネットワークアダブターを調しまて、Windows Server2015 でのパケットが、同じキットワークアダブ ターで保持されます。 これにより、同じてPストリームからの全てのパケットが、同じキットワークアダブ ターで保持されます。. 通常は、パリームア・ショフル・ゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実見されます。. 調定するごきます。このと使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実見されます。. レメタン・パイアダブターを認定するこからったてのパケットが、同しきのトワークアダブター間の負 荷分散が実見されます。. シンパイアダブターを通じまて、いたます。この提供しい自otestatestatestatestatestatestatestatest	チーム名称	チーム名を入力します(必須)。デフォルトのチーム名は「Team0」です。
アノバーブタブダー 注意)転送速度が異なる Pon を選択することはできません。 何れかを選択します、標準は「スイッチ」に依存しない」です。 時のチーミング スイッチは存モード。 あらかじめ、スイッチとコンビュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを 選別する必要があります。 -スイッチに依存しない スイッチ非依存モード。 -スイッチはな存モード。 -スイッチはな存モード。 LACP (Lini Aggregation Control Protocol) スイッチな存モード。 LACP を使って動的にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「プドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 での標準は「プドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 での標準は「プドレスのハッシュ」、 パケットのコンボーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が変要されます。 ・物PVP・パートが同じもので負荷分散されます。 ・物でットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを遵定変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター 何れかを選択します、標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance どはな、Load Balancing となります。 - なし(金のアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 - なし(金のアダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではな、Fault Tolerance となはます。 - なし(金のアダブターを選択します。選択したかが、通常「スタンバイ」です。 し、とれ ボート 物理アダブターを選択します。選択したかが、通常「スタンバ」です。 Load Balancing ではな、Fault Tolerance となります。 - 次の(知)「ヤレスを使う」をチェックします。 アドレスを使うしきチェックにます。「DNS サーバーのアドレスを自 カトン・のアドレスを強うになった。 - 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを数定 WINS アドレスを数定 WINS アドレスを数定	<u> ハンバーマドプタ</u>	チームを組む LAN をチェックします。
何れかを選択します。標準は「スイッチに依存しない」です。 ・ ・	<i>xJN-YyJy-</i>	注意)転送速度が異なる Port を選択することはできません。
・静的チーミング スペッチ依存モード。 あらかじめ、スペッチとコンピュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを 識別する必要があります。 ・スペッチに依存したい スペッチ依存モード。 スペッチに依存したい スペッチ依存モード。 ・スペッチに依存したい スペッチ依存モード。 レCP を使って動的にリンクの識別を行います。 ・しCP を使って動的にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「対しスのハッシュ」、 バケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブター副の負 市分散が実現されます。 ・たれにより、同じてP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 これにより、同じてP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 ・教育が数変現されます。 ・海前の「シャンオート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート ・サyper-V ポート Hyper-V ボート Hyper-V ボート のれたずを見つきまを見合したりためたいを見合したりたいためらします。 こなしたがっ DNS サーバーのアドレスを使うきたまっひたますしたますいたいます。 注意)IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレスを 使うしたすっしたま者になりたますいたますいたいたく使うきまっかしたますいたいますいたいたく使うしたすいたいたく使うしますいたいたく使うしたまったいたますいたいたいたく使うしたますいたいたいためらしますいたいたいたく使うしたまったいたいためらしますいたいたいたいたますいたいたいためらしますいたいたいたいためらしたますいたいたいたいたいたいためらしますいたいたいたいたいためらしますいたいたいためらしますいたいたいたいためらしますいたいたいたいためらしますいたいたいたいためらしますいた		何れかを選択します。標準は「スイッチに依存しない」です。
オージングモード あらかじめ、スイッチとコンピュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを 識別する必要があります。 チーミングモード スイッチ非依存モード。 オーム内のアダブターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。 - (人CP(Linl Aggregation Control Protocol) スイッチ依存モード。 メーム内のアダブターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。 - (人CP(Linl Aggregation Control Protocol) スイッチ依存モード。 レACP と使って動的にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「DFレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「助的」です。 ・パンアシトのシャンポートントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 - アドレスのハッシュ パケットのコポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブターご相(あ) 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター で保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、で、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 - ・キレニメリートが同じもので負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンパイアダブター アメロレマドレマンボートが同じもので登荷を見て、自然が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンパイアダブター ・なし(全てのアダブターがアクティブ) - ・ Fault Tolerance ではなく、Loud Balancing となります。 ・ 名 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンパイ」です。 マクレイアダブター シレスを建たしるを認ってきまっクしんは Alundows Server2012 R2 および Windows Server2015 で設定 ためは Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定を自動取得したく下はこを使うしをすっクレイリアドレスを使うます。 IPv4 のアドレス設定を自動取得したく下したりためになくしまなり、「アドレスを通知」「P7 イレクアドレスを持つまで、 アドレスを使う」をすっクしたいティー・トゥー イレストレキャックレードレスを使う」をすっクしたいや「マルキャック」 ク(必須)「ディックしたみ」にあったいろ サーバーのアドレスを指しまの カレスキャックしためうします。 DNS サーバーのアドレスを使う」をすっクしたまっ、ため」 りしまず。 します。		-静的チーミング
あらかじめ、スイッチとコンピュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを		スイッチ依存モード。
第一ミングモード 識別する必要があります。 - スイッチに依存しない スイッチ球依存モード。 テーム内のアダブターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。 - LACP (Lin l Aggregation Control Protocol) スイッチ球な存モード。 LACP を使って勤的にリンクの識別を行います。 (日んかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「勤的」です。 - アドレスのハッシュ パケットのコンポーネンドに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 資荷分散モード (日れかを選択します。Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「勤的」です。 - アドレスのハッシュ パケットのコンポーネンドに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブターが気に見まし、間じてCP ストリークカウダブターで保持されます。 資荷分散で現きれます。 - 海が飲が実現されます。 - 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 - Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ボート Megrey プターを通信支充しいきます。.co値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター (日れかを選択します。選択したすが、通常「スタンバイアダブターでするよよび Windows Server2016 で設定可能です。) アメレイアダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 (IPv4 アドレスを直力を呈すいします。) アメリイアシンス支援を自動取得(DHCP) する場合は「IPv4 アドレスを指支すを呈かします。、 ? (20) IY マナレスを使うきチェックしま合は」(IPv 7 ドレスを指定する場合は、「グン ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 (注意) IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設定 DNS サーバーのアドレスを使うきチェックします。INS サーバーのアドレスを 参加します。 注意) IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを認定 WINS アドレスを認定できません。 WINS アドレスを認定できません。		あらかじめ、スイッチとコンピュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを
テーシングモード -スイッチド依存しない スイッチ球依存モード。 テーム内のアダブターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。 -LACP(Linl Aggregation Control Protocol) スイッチ依存モード。 LACP を使って動的にリンクの識別を行います。 調査 「何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「野ドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じてCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 -動約 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜支えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター 何れかを選択します。標準は、「なしく全てのアダブターがアクティブ」」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 - きしAN ボート 物理アダブターを通貨します。通定 IP の場合は「たの IPY アドレスを使うまチェックにす。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレス設定を自動時(中の上す・) DNS サーバーのアドレス設定 DNS サーバーのアドレス設定 IPv4 オドレス設定を自動取得 DhCP) する場合は「「DNS サーバーのアドレスを 力します。 注意 IIPv6 は設定できません。 WINS アドレスを経営 3 シーバークアレスを 力します。 Sサーバーのスドレスを指定する場合は、「グレスを指定するようえ、 オルます。		識別する必要があります。
スイッチ非依存モード。	チーミングモード	-スイッチに依存しない
サーム内のアダブターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。 -LACP(Linl Aggregation Control Protocol) スイッチ依存モード。 LACP を使って動的にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 イボレンジュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 ーボにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブターで保持されます。 ーボレンジュ イゲットのコンデーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブターの見ず、物理アダブターで保持されます。 ・通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブターで保持されます。 ・「サper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Mymdows Server2016 で設定可能です。 マキンバイアダブター イケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 マキンバイアダブター キャンハウアダブターがアウティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ボート 物理アダブターを選択します。運用の場合は方の IPV オトレスを自動取得 DHCP)する場合は「IPV オトレスを自動的に取得す る」をチェックします。個別に IP の場合は方次の IPV オトレスを自動的に取得す る」をチェックした場合は、「IP アドレスを自動的に取得す クがの IPV4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを接っ」をチェックします。「次の IDNS サーバーのアドレスを かします。」 DNS サーバーのアドレスを 定 3) IPV6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「ズク OT ドレスを指定する場合は、「ズク のアドレスを指定する場合は、「VMINS アドレスを指定するよう、アドレスを かします。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「VFレスを かします。		スイッチ非依存モード。
-LACP (Linl Aggregation Control Protocol) スイッテ体存モード。 LACP を使って動的にリンクの識別を行います。傾れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2016 での標準は「動力です。 ・アドレスのハッシュ ・パケットのコンボーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ ・パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負荷分散が実現されます。 ・出りper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボートが同じもので負荷分散されます。 ・動的 ・パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 (信アダブターを適置変えていきます、この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。スタンパイアダブター オード何れかを選択します。標準は、「なしく全てのアダブターがアクティブ)」です。 ・なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・名 LAN ボート 物理アダブターを選択します。ご知(してのアダブターがアクティブ)」 Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・名 LAN ポート 物理アダブターを運用していない、「レス教会」の目です。 (小グ) アレス設定を自動取得した方が、通常「スタンパイ」です。 しad Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 ・名 LAN ポート 物理アダブターを運用していなく、Load Balancing となります。 ・名 LAN ボート 物理アダブターを運用していたちが、通常「スタンパイ」です。 しad Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 ・名 LAN ポート 物理アダブターを運用していたちが、通常「スタンパイ」です。 しad Balancing ではな、Load Balancing どなります。 ・名 LAN ポート 物理アダブターを通知の得てはていたりなりをすいたいえを信うをチェックします。 「ためのアドレスを使うるチェックした場合は、「IPY オーバーのアドレスを自動のに取得するほそは、「IPY イトレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使うるチェックします。「注意)IPY6 は設定できません。 WINS アドレスを指定する場合は、「ブクマリ DNS アドレスを指定する場合は、「スタ DNS サーバーのアドレスを使うるチェックしまできょう、「次の DNS サーバーのアドレスを使うにをチェックしまり、「キェックし、アドレスを指定する場合は、「CNN S アドレスを指定する場合は、「アクトレスを加入」を ・カレます。 ・注意)IPY6 は設定できません。 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレス・ディークし、アドレス・アドレスを ・カレス・ディークし、アイトンの「マクし、アドレストンの、「ため」」 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS ア		チーム内のアダプターを別々のスイッチに接続可能(同じでも良い)です。
スイッチ依存モード。 LACP を使って勤約にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「野ドレスのハッシュ」、 Windows Server2016 での標準は「勤的」です。 ・アドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 ・アドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 ・フドレスのハッシュ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 ・コにより、同じTCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・勤的 パケットのの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを通査変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 マシバイアダブター イケットのの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを通査変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 マシンバイアダブター イレード ・物理アダブターを選択します。課準は、「なしく全てのアダブターがアクティブ)」です。 ・なしく全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・名しAN ボート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 レイアドレス設定 IPv4 のアドレス設定 レイ アドレス設定を自動取得しいドゲータイドレスを指定する場合は、「PTドレスを協う」をキェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IPアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを ゆう」をチェックした場合は、「ブク ONS サーバーのアドレスを りたます。、 DNS サーバーのアドレスを認うにをきません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを設定 ジェックした場合は、「ブク マリ DNS アドレスを指定する場合は、「XNNS アドレスを指定する場合は、「VLスを 力します。		-LACP(Linl Aggregation Control Protocol)
LACP を使って動的にリンクの識別を行います。 何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ、 ・アドレスのハッシュ、 パケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ バケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ バケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブター クーで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポートか「同じもので負荷分散されます。 ・動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 値アダブターを適定象えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンパイアダブター スタンパイアダブター 「何れかを選択します。課年は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンパイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 ・A LAN ポート 物理アダブクーを選択します。週末してようは、IPアドレスを使う「をチェックします。 「ため」「デフォルレゲートウェイ」を入力します。 DNS サーバーのアドレス酸定を自動取得しHOLPP うる場合は「、IPアドレスを使う「シチェックします。 「ため」「デフォルレゲートウェイ」を入力します。 注意〕IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレスを引きうきたい CMS サーバーのアドレスを自動な得する」をポージの DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「ブライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「水の DNS サーバーのアドレスを指定すません。 WINS アドレスを指定すきません。 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定すません。 WINS アドレスを指定すません。 WINS アドレスを指定すません。		スイッチ依存モード。
何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、 Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ バケットのコンパーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じTCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-ド 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター で保持されます。 ・Hyper-Vボート Hyper-Vボート ・Develope-Vボート Hyper-Vボート ・ロックークアダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適定支ていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 ・センマークリーン および ・なしてのアダブターがアウラークボアクラーがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・なし(全てのアダブターがアクティブ) ・なしてのアダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 ・ムロッビックション・シューク・キレスを使う「をチェックします。 ・ムロ 日のについていたまを使う「ション・シーン・マーン・シューン・シーン・マーン・シューン・ション・ション・ション・シーン・ション・シーン・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ショ		LACP を使って動的にリンクの識別を行います。
算荷分散モード Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ パケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 - 地yper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート アメウットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンパイアダブター キュロンパイアダブター 第回れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 - なし(全てのアダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンパイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv7 ドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 注意)IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設 定 DNS サーバーのアドレス設定 使う」をチェックした場合は、「ブライマリ DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「ブライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「VINS アドレスを指定する場合し、 アビスを指定する場合し、 WINS アドレスを指定する場合し、「WINS アドレスを指定するよう」の、アドレスを指定するよう WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合し、「VINS アドレスを指定する場合し、 アレスを指定する場合し、「WINS アドレスを指定する場合し、「VINS アドレスを指定するよ フィレスを		何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、
・アドレスのハッシュ ・パケットのコンボーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・損物per-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Byper-V ボート (ロハかを選択します。ます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター キュロション(イアダブター ションの) ・「サリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・サリーマ・レボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボート Hyper-V ボートが同じもので負荷分散されます。 ・・ ・・ ・カリージーのアダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 ・・ ・・ ・カレーボートが同じもので育荷分散されます。 ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・クラックのアダブターのクダブターのりまりました ・・ ・シンパイアダブター ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ <t< td=""><td></td><td>Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。</td></t<>		Windows Server2012 R2, Windows Server2016 での標準は「動的」です。
算荷分散モード パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じてCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブタ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。 ・動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター ・なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレスを使うすな、「Aut Tolerance どなります。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックしま場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 く必須」」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを かします。 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定するますエックし、アドレスを 力します。		-アドレスのハッシュ
負荷分散モード パケットを、使用可能なネットワークアダブタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダブ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-V ポート Hyper-V ポート Myper-V ポート Hyper-V ポート パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを遮頂変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 クロシンパイアダブター 何れかを選択します。標準は、「なしく全てのアダブターがアクティブ」)です。 ・なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 ・Pv4 のアドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る)をチェックしまず。固定 IP の場合は「欠w 1Pv1 スを使うきチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使うきチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイを入力します。 注意)IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設 定 DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを 使うきチェックしまで。DNS サーバーのアドレスを 使うきチェックします。のNS サーバーのアドレスを 使うきチェックしまる。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「グライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「ドレスを 力します。		パケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つ
負荷分散モード これにより、同じTCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダプ ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダプター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-ド ・サンシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダプター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-Vボート Hyper-Vボート Hyper-Vボート Hyper-Vボート ・リックローンボート Hyper-Vボート ・リックローンボート Hyper-Vボート ・リックローンボート Hyper-Vボート ・リックローンボート Hyper-Vボート ・リックローンボート Hyper-Vボート ・リンの中身は見ず、物理アダプターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダプターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダプター 「個れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダプターがアクティブ)」です。 ・なし(全てのアダプターボアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・名しAN ボート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 ・なし(全てのアダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 ・各 LAN ボート 物理アダプターを選択します。ごはなく、Fault Tolerance となります。 ・クレス酸プレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す。 る」をチェックします。回取(P)を引く通知(F)を引くます。 「アドレスを使う」をチェックします。 ・IPv4 のアドレス設定 「DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックレージー・ディーンデレンスを 使う」をチェックした場合は、「アリ DNS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「アグレスジーン、アドレスを 力します。 WINS アドレスを設定 WiNS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「アグレ、アドレスを指定する場合は、「IP F レスを 力します。 <td></td> <td>パケットを、使用可能なネットワークアダプタに割り当てます。</td>		パケットを、使用可能なネットワークアダプタに割り当てます。
負荷分散モード ターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負 荷分散が実現されます。 ・Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート ・動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンパイアダブター 何れかを選択します。標準は、「なしく全てのアダブターがアクティブ)」です。 ・なしく全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得する場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 注意)IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設定 NS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス「セカンダリ DNS アドレスき入 カします。 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「アケレ、アドレスを入 カします。		これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダプ
負荷分散モード 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダブター間の負荷分散が実現されます。 ・Hyper-Vボート Hyper-Vボート Hyper-Vボート Hyper-Vボート Hyper-Vボーク 「ホートか ボロード 「クリンクランクションクリングランクランクションクリング・ションクシーングランクシング・ディング・ジョング・デンク・ディング・ジョング・ボーン・ スタンバイアダブター Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -各LAN ボート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 - ・日本 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPV4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。回家の IPV4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「ロッチャージークラング・ディンクレンジリンズ・ ・ドレイ のアドレス設定を自動取得する」をデェックしたす。 注意)IPV6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「ブライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「アレスを引っ、 シボーシックレ、アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「アレスを入し、 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを		ターで保持されます。
荷分散が実現されます。 ・Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポート Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。 -動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 何れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得する」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを直動的に取得する」をキェックした場合は、「ブライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを検 う」をチェックした場合は、「ブライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを指定する場合は、「VINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを指定する場合は、「アドレスを指定」をキェックし、アドレスを指定」をキェックし、アドレスを指定する。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。	負荷分散モード	通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダプター間の負
-Hyper-V ポート Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。 -動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター 何れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 ・各 LAN ポート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 DNS サーバーのアドレス設定 DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS アドレスを指定する場合は、「ブライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「次の DNS アドレスを設定 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		荷分散が実現されます。
Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。 ・動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 スタンバイアダブター 何れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 ・なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 スタンバイアダブター 「利れかを選択します。課題にます。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 1Pv4 のアドレス設定 「Pv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「Pv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 DNS サーバーのアドレス設定 DNS サーバーアドレスを使う」をチェックした場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場をチェックしたす。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「ブライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレスを入 力します。 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「VINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		-Hyper-V ポート
-動的 動的 パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。 クロかを選択します。標準は、「なし(全てのアダブターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダブターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -名 LAN ボート 物理アダブターを選択します。選択した方が、通常「スタンパイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。 IPv4 のアドレス設定 IPv4 のアドレス設定 IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP) する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP) する場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを定き」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 注意 IIPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「欠の DNS アドレスを設定 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「アレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。
パケットの中身は見ず、物理アダブターの負荷を見て、負荷が平等になるように送 信アダブターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 および Windows Server2016 で設定可能です。スタンバイアダプター何れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダプターがアクティブ))です。 -なし(全てのアダプターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -各 LAN ポート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「スの DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス「セカンダリ DNS アドレス」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定する場合は、「VNS アドレスを指定する場合は、「FMINS アドレスを 力します。		-動的
Image: Server2016 で設定可能です。スタンバイアダプタースタンバイアダプター「何れかを選択します。標準は、「なし(全てのアダプターがアクティブ)」です。 -なし(全てのアダプターがアクティブ) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -各 LAN ポート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 のアドレス設定IPv4 のアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを自動の目ののアドレスを指定する場合は、「クス DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「プライマリ DNS アドレスを指定する場合は、「次の DNS アドレスを指定する場合は、「アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。WINS アドレスを設定		パケットの中身は見ず、物理アダプターの負荷を見て、負荷が平等になるように送
マタンバイアダプター「れれるおと Outricute Cuck 1 in C y aマタンバイアダプター「何れかを選択します。標準は、「なし (全てのアダプターがアクティブ)) Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 - 各 LAN ポート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーアドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS アドレスを指定する場合は、「ジリ DNS アドレスを指定する場合は、「VINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。		信アダプターを過且変えていきます。この値は Windows Server2012 RZ および Windows Server2016で設定可能です。
Introductory and the intervence inter		「何わかた選択」ます。 一種進け 「た」 (タイのアダプターがアクティブ))です
Ability ConstructionAbility ConstructionスタンバイアダプターFault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -名 LAN ポート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP) する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 注意) IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。ONS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS アドレスを指定する場合は、「VDNS アドレスを指定する場合は、「VNNS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。		「「 M_{100} 」を取じます。「赤牛は、「なしく王 このアダンターがアクティン/」こす。 - たし (全てのアダプターがアクティブ)
スタンバイアダプターHour Hole Class (Claub Duchting Class (Class (Claub Duchting Class (Claub Duchting Claub		Fault Tolerance ではなく Load Balancing となります
IDENTIFY物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。	スタンバイアダプター	- 冬 I AN ポート
INSTITUTELoad Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。IPv4 のアドレス設定IPv4 アドレス設定を自動取得 (DHCP) する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 カします。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。		物理アダプターを選択します、選択した方が、通営「スタンバイ」です。
IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意) IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 カします。 注意) IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。
IPv4 のアドレス設定る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意) IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 力します。 注意) IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		 IPv4 アドレス設定を自動取得(DHCP)する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得す
IPv4 のアドレス設定 「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意) IPv6 は設定できません。 DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 力します。 注意) IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。	IPv4 のアドレス設定	る」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。
ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意)IPv6は設定できません。 DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次のDNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次のDNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次のDNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次のDNS アドレスを指定する場合は、「プライマリDNS アドレス」「セカンダリDNS アドレス」を入力します。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。		「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス(必須)」「サブネットマス
注意)IPv6 は設定できません。DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 カします。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。		ク(必須)」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。
DNS サーバーのアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自 動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 カします。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。		注意)IPv6 は設定できません。
DNS サーバーのアドレス設動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 カします。 注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを設定WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。	DNS サーバーのアドレス設 定	DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自
DNS サーバーのアドレス設 定 使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入 力します。 注意) IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		動的に取得する」をチェックします。DNS サーハーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのスピレスを使うしたチェック」ます「次の DNS サーバーのスピレスを
レージョン・シンシンにあるになくシンシーマンシン・レンジーとパンシン・レンジーン カします。 注意)IPv6 は設定できません。 WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 カします。		「DNS リーハーのアドレスを使う」をテェックします。「次の DNS リーハーのアドレスを 使う」をチェックした場合は「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入
注意)IPv6 は設定できません。WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。		したり、「カレます。
WINS アドレスを設定 WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入 力します。		注意)IPv6 は設定できません。
WINS アトレスを設定 力します。 カレます。		WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入
	↓ VVINS アトレスを設定	カします。

3.11 サーバーの役割・機能

- サーバーの役割・程能 「Webサーバー(IIS) 「DHCPサーバー 「DHCPサーバー 「DNSサーバー 「WINSサーバー 「Hyper-V
 - West the second second
 - 🔽 NET Framework 3.5 (Windows Server 2012でUniversal RAID ユーティリティ運動の場合、必須)

ネットワークサービス設定を行います。 必要なサービスをチェックしてください。

Web サーバー(IIS)	インターネットインフォメーションサービス(IIS)を使用する場合にチェックします。IIS の中の設定項目は固定です(インストーラーの規定値)。 ※ESMPRO では IIS は使用しません。
DHCP サーバー	動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用する場合にチェックします。
DNS サーバー	ドメインネームシステム(DNS)を使用する場合にチェックします。
WINS サーバー	Windows インターネットネームサービス(WINS)を使用する場合にチェックします。
Hyper-V	Hyper-V を使用する場合にチェックします。
.NET Framework 3.5	Universal RAID ユーティリティを選択したときは必ずインストールされます。
.NET Framework 4.5.2	Windows Server2012 および Windows Server2012 R2 で ESMPRO/SAS を選択 したときは必ずインストールされます。

3.12 バンドルソフトウェアの設定

対象となるバンドルソフトウェアは本サービスの形番によって異なります。

•ACR3775C

-15.	
	W ESMPRO/Server AgentService (小海)
	ー ▼ RESTfulインターフェースツール (必須)
	☑ 装置情報収集ユーティリティ (必須)
	📝 Agentless Management Service (必須)
	📝 Smart Storage Administrator (必須)
	🗹 RAID Report Service (必須)

バンドルソフトウェアはすべて必須でインストールされます。

ESMPRO/SAS(エージェント)	サーバー管理ソフトウェアの被管理サーバー側モジュールです。
RESTful インターフェースツール	サーバー管理タスクを自動化するためのスクリプトツールです。
装置情報収集ユーティリティ	障害ログを採取するために必要なツールです。
Agentless Management Service	iLOが直接収集できないOSイベントなどの情報をiLOへ送信するサービスです。
Smart Storage Administrator	ディスクアレイコントローラーを設定して RAID を構築するユーティリティです。
RAID Report Service	RAID の状態を監視し、障害等の発生を通知するサービスです。

•ACR3775B

オンボード RAID、RAID コントローラーをご使用のときは、RAID 管理ソフトウェア「Universal RAID ユーティリティ(Universal RAID Utility)」をインストールしてください。

 ✓ Universal RAID ユーティリティ ダスタンダードモード : 閲覧書権限 〇アドリンスドモード : 管理者権限, RAIDの)操作が可能 	「バンドルソフトウェア設定」を行います。 Universal RAID ユーティリティをインストールされるこ とを推奨します。
ESMPRO/Server AgentService	
☑ 装置情報収集ユーティリティ(必須)	
☑ Ezclot Viewer (紀知)	

	Universal RAID ユーティリティをインストールされることを推奨します。	
Universal RAID ユーティリティ	管理モード: Universal RAID ユーティリティのアクセス権限を設定します。	
	- スタンダードモード:閲覧者権限です。	
	- アドバンストモード:管理者権限です。RAIDの操作ができます。	
ESMPRO/SAS(エージェント)	サーバー管理ソフトウェアの被管理サーバー側モジュールです。	
装置情報収集ユーティリティ	障害ログを採取するために必要なツールです。必須でインストールされます。	
Ezclet Viewer	装置情報収集ユーティリティのビューアーです。	
	MAGNIA R1310f/T1340f/C1300f では必須でインストールされます。	

3.13 構成設定入力の確認

構成の作成が完了したら、Dたへ (構成内容を確認) 次へ (構成内容を確認)	[2]] ボタンをクリックして構成内容を確認してください。	設定した構成内容を確認したい場合は、[次へ(構成内容 を確認]をクリックします。
設定の一時保存 ※設定中の内容をMLファイルとして、お違いのPOにダウ ただし、「確定」チェックオックスがある項目については、 設定に読込 ※一時保存したXLファイルを読み込みます。 ハードウェア構成(メモリ、ティスク等)も、一時保存した	♡Jロードします。 確定していない項目は保存されません。 時のi内容iつなります。	ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してくださ い。
このワインドワを閉じる		
(1) MARKA、***** 72.592-55-76-7-152 周期 MARKA、*****	(2)	導入支援サービスツールに入力された情報を元に、製造 指示用ファイルの内容を表示します。
2150 An - Tai (2006) - Ann - (10 1 - 101 - 1	• MET CON (MAR) 	ちのけ「カフタノノン・フトールサービフ」の歌字例をまこし
LER 1 TATO H1588 FER CON- AC CON-	- 林- 予めん認識 - 副手子(2)9 前 - 国際(1(2)7年(2)1(日)) - 国際(1(2)75(7)(1-9+(nc)) - 国際(1(2)75(7)(1-9+(nc)))	た場合です(1~3の順で表示)。
PTor OFFICER	- Minima 8 8 827 (2005 - 3 - 6 - 9 - 6 - 940 - (1401 87 / (14)) Makatawar (129 - 7 - 94 - 6)	
200 AD 100 AD 10	- 148/939- 7-1/281 edit	
BAY (* 2. 01.00x/3/2-47 (* 21.000154) 05 (20.2)/24.0001562 / founds for a URI \$7.2 minute 88872/80 00.0004 (\$20.0000) 68872/80-2> 100.02/20-2-50-4	- COI-47549-77-22 Wet-1-00 B0223-86258-90 755-24-2572-86 Wene C2-24-2-37-22.5900	
(3)		
(3)		
Baranat NGD ユー・ハット (クック・トキード) 1997年のGaranifert 2015年3月ユー テック・マレール Residen PACE (この)		
ENAMPSE TO A ADDRESS OF A DESCRIPTION OF THE TWO ADDRESS OF A DESCRIPTION OF A DESCRIPTION OF A DESCRIPTIONO		
□ 1997年5月29) □ 2119559 - 米田山田田田 0.00=05181.086875.405981996137. [2020-092978732]		
ーインストールするバンドルソフトウェア		確認が終わったら、目的に応じたボタンをクリックします。
Universal RAID ユーティリティ (スタンダードモード) ESMPRO/Server Agent		
装置情報収集ユーティリティ Broadcom BACS3 (必須)		ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してくださ
国道指示用ファイル出力1米シンをクリックすると、TSOLへの 出力したファイルを、MAGNA本体の発生と同時に担当部門へ 製造指示用ファイル出力	製造指示書を出力します。 み送りくたさい。	
回動「ボタンをクリックすると、上記の構成内容を印刷します。 必要に応じて、お客様との内容確認などにご利用ください。 「印刷」		
□ お客様署名儲あり □ 邦注指報のリンド第注情報ありのチェックを外した場合でも、JCG時番は印刷します。		
このウィンドウを増加しる。		

3.14 構成設定入力の印刷(確認用)

【製造指示用ファイル出力】ボタンをクリックすると、TSOLへの製造指示書を出力します。 出力したファイルを、MAGNAA本体の発送と同時に担当部門へお迫じださい。 製造指示用ファイル出力 「印刷」ボタンをクリックすると、上記の構成内容を印刷します。 必要に応じて、赤客様との内容確認などにご利用びださい。 ① 印刷 ● お客様電名構築り ● お客様電名構築り ● 知道情報あり」×「知道情報系り切りチェックを外した場合でも、JOEF構動は印刷します。 このウヘンドウを開しる	[印刷]をクリックします。 目的に応じて「お客様署名欄あり」「発注情報あり」をチェ ックします。 ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してくださ い。
日間 「 日間 「 日間 「 日間 「 日の 」	印刷指定をします。 印刷するデバイスを選択し、[印刷(P)]をクリックします。
	左図は「お客様署名欄あり」「発注情報あり」の両方をチェ ックした場合のサンプル。 どちらか一方をチェックしたときは、チェックした方のみが 印刷されます。

3.15 製造指示用ファイルの作成

Bit 00 * 07 * 07 * 0.4 ± 00 * 00 * 00 * 00 * 00 * 00 * 00 * 0	(製造指示用ファイル出力) ボタンをクリックすると、TSOLへの製造指示書を出力します。 出力したファイルを、MAGNIA本体の発注と同時に担当部門へあ送りください。 製造指示用ファイル出力	[製造指示用ファイル出力]をクリックします。
アイルのワンロート ファイルを保存します。 (0) / 4 & K (R (L 3 / 9) (R (S))]をクリックします。 (1) そのしていたいである Exact フークシート 9.40 KB (R (S))]をクリックします。 (1) そのしていたいたいである Exact Transmitted Exact	 [11回] ボタンをワックチると、上記の構成内容差印刷します。 必要してにて、お客様との内容機認などにご利用ください。 [13回] 「お客様客名機あり」 「私客様客名機あり」 「発生情報あり」×(発出情報あり)のチェックを外した場合でも、JOP時間は印刷します。 このウインドウを閉じる 	ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。
	ファイルのダウンロード × このファイルを保存しますか? 名前: ACR3775A_ABC0123_凸凹株式会社.xlsx 福井 Microsoft Office Excel ワークシート、94.0 KB 発信元 magniatest.tsol413345.s67.toshiba-sol.co.jp 保存(S) キャンセル ジークーズットのファイルは役に立ちますが、ファイルによってはコンピューターに問題 を起こすたのたあります。新潟デエが信頼できない場合は、このファイルを保存しな いて代えい、加速性の見見	ファイルを保存します。 [保存(S)]をクリックします。
	名前を付けて存存 型種・ ・ 単 ・ 学 お気に入り ・ ● オブラント・ ● ● オブラント ● ● フォルダーの非表示 ●	ファイル名は下記に従って命名されます。ファイル形式は 「xlsx」のみです。 営業形番_JOB_顧客名.xlsx JOB と顧客名の入力は、本書「発注情報の入力」を参照 してください。
○ いっかん しょう マン (別は休暇あり)の チェックを外した場合でも、のは時間は印刷します。 このウインドウを閉じる	【製造指示用ファイル出力】ボタンをクリックすると、TSOLへの製造指示書を出力します。 出力したファイルを、MAGNA本住の発注と同時に担当部門へあ送りください。 製造指示用ファイル出力 「印刷】ボタンをクリックすると、上記の構成内容を印刷します。 必要したじて、お客様との内容確認なといこで利用ください。	[このウィンドウを閉じる]をクリックし、終了します。

NALISをかえなスイズリービス・最低なシットと MALISをかえなスイズリービス・最低なシットと MME 1465年9日 ALIS及ぼシート (MALINEでカステマイス・カスタムインス)- 4月泉) 単位な4040日 (1011) - 111((1011) 単位な4040日 (1021)	<u>日和七学</u> カスタルインストール・ケービス・構成などとート 加スタルインストール・ケービス・構成などとート 1011日空ビート(04.8522トラドイズ・カスタムインストール系曲) 1011日空ビート(04.8522トラドイズ・カスタムインストール系曲) 1011日空ビート(04.8522トラドイズ・カスタムインストール 1011日マーレート	左図は出力した Excel ファイル(xlsx)のサンプルです (Top page のみ)。 このファイルが製造指示用ファイルです。
	(11) (12) (12) (12) (12) (12) (12) (注文時に提出してください。
Aumps MAIA Exits MALA Exits - SEIME, MAIA (N.K.R) MALA Exits - SEIME, MAIA (N.K.R) MARA 1 T MARANZA FREIN-INF75 (J)	A 4988 NMULTION NB_2218 >> 023215 >> 012315 </td <td></td>	

製造指示用ファイル 送付時のお願い

担当部署へ送付するメールの件名は下記に従ってください。 【導入支援設定シート送付】営業形番_JOB_ユーザ名_サーバー本体名称

例:【導入支援設定シート送付】ACR3774B_JOB_ユーザ名_C1300c

同じ構成の製造指示用ファイルを複数作成するとき

同じ構成の製造指示用ファイルを使って、複数の同じ構成の製造指示用ファイルを作成することができます。 編集したファイル名は自動では命名できません。命名ルールに従って変更してください。

(注意)

・仕様の異なる製造指示用ファイルを使わないでください。設定内容の変更はできません。

・修正した内容に間違いがないことを必ず確認してください。

・ 新しいフォルダーを ・ 「・」 新しいフォルダーをのの場所 第二・ 広気 第二・ 「・」 第二・ 「・」 第二・ 広気 第二・ 「・」 第二・ 「・」 第二・ 「・」 第二・ 「・」 第二・ 「・」 第二・ 「・ 1 1 1 111111111111111111111111111111111111	Excel を起動し、対象の製造指示用ファイルを開きま す。 「表紙」シートを表示します。 必要な個所を編集します。 編集ができるのは下記のとおりです。 他の項目を編集することはできません。 ・日付 ・JOB ・顧客名
E-44 1000 - 10	
	 ファイルを保存します。 このとき、判別用の番号をつけるなどの対応をしてください。 例: 営業形番_JOB_顧客名(1).xlsx 営業形番_JOB_顧客名(2).xlsx

3.16 設定の一時保存ファイルを作成する

構成設定チェックシートに入力した設定をファイルに一時保存します。 ここで作成するファイルは「製造指示用ファイル」ではありません。

構成の作成が完てしたら、しかく(構成作者を確認)がないをクリックして構成作者を確認していたさい。 次へ (構成作者で確認)	設定を一時保存する場合は、[設定の一時保存]をクリッ クします。 ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。
ファイルのダウンロード このファイルを保存しますか? 名前:export.xml 種類:XMLドキュメント,7.26 KB 現信元:magniatest.tsol413345.s57.toshiba-sol.co.jp 復存(S) キャンセル (保存(S)) キャンセル このファイルを保存しますが、ファイルによってはコンピューシーに問題 を起こすたのためびます。報告元が皆報できない場合は、このファイルを保存しま いてください。	[保存(S)]をクリックします。
名前を行けて存存 2 当理・「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	デフォルトのファイル名は「exprt.xml」です。 ファイル名の変更はできますが、ファイル形式は「xml」の みです。

3.17 設定の一時保存ファイルを読込む

設定の一時保存した構成設定チェックシートの設定情報を一時保存したファイルから読込ます。

株式の内容が使ていたた。たかく体理が得な実施201米がよきたシックルで用は内容を施設してくたき、も 次々(構成力量を確認)	[設定読込]をクリックします。
設定の一時保存 ※算案を示意をMIフィロとして、提供LODOLISでのロードします。	
1995. (RELEASOND CONSIGNED, COLOR RECLOCATION OF THE CAR.)	ホランの計画については「ホランの機能」を参照していたと
ハーナウムア時間(小豆) ディスンボ) 6、一時時日 人が中の小田にないます。	
🍘 ファイルを選択 - Windows Interne 💷 😐 🔜	[参照]をクリックします。
インボートするXMLファイルを選択してください。	
参照	
アップロード キャンセル	
	エクスプローラから
2017 - 6(Lutral/A)- 63 - 11 ⊕	「一時保存」で保存したファイル(xml)を指定し、[開く(O)]
	をクリックします。
12 単近表示した場所	
) ライフラリ □ F#=_メント ■ <i>E40=</i> ≠	
■ ビデオ ↓ ミュージック _	
ファイルを(h): apport - デベスのファイル(.*.) ・ 「アベスのファイル(.*.)	
🏈 ファイルを選択 - Windows Interne 🗖 🗖 💌 🗙	ファイルを確定し、[アップロード]をクリックします。
インボートするXMLファイルを選択してください。	
C.¥I Isere¥Administrator¥Des 表昭	
MAGNIA カスタムインストールサービス 構成作成	 設定画面を表示します。
11	[サービス仕様書]をクリックし、記載事項をよく読み、サ
2. 10/14/08	ービス内容に同意される場合は「同意する」をチェックしま
「サービスは種類」ボタンをクリックすると、割ウムンドウビネサービスの作種が表示されます。 エリーンスの生産生産問題、ただき、内容に同想、ただける場合のみ、ホウールを使用できます。 ■ 同様する	す。
	同意しない場合は、[このウィンドウを閉じる]をクリックし
	て終了します。
このつくつやうを見しる	
MAIGINUA ***** カスメムインストールサーヒス 補成作成	一時保存した設定が表示されます。
サービス仕様書	
けービス仕様書)ボジンをクリックすると、別つバンドウでホサービスの仕様が表示されます。 ネサービスの仕様をご願認しただき、内容に回帰しただりる場合のみ、ネツールズの用作さます。 同日でする	
101 H28 2 M	
現注指編 JOB - 項書(本(本項書) ABC0123 - 0100 / 0010)	
把当百草 成名 東芝 花子	
TEL 045-123-XXXX E-mail hanalo tothiba@tothiba.**.**	
お課題: (営業)(営務(2) にの、 東京 - 40	
相当SE TEL 045-123-XXXX	
E-mil : two toohba@toohba**** 108% 公型科式会社	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
- LLIMPST-KAOB (MAA) - * 採記者 - 未成別	

ボタンの機能について 3.18

・構成設定チェックシート画面のボタン

構成の作成が完了したら、「次へ(構成内容を確認)」「ボタンをクリックして構成内容を確認してください。 次へ (構成内容を確認)

設定の一時保存 ※設定中の内容をMLファイルとして、お使いのPOにダウンロードします。 ただし、「確定」チェックボックスがある項目については、確定していない項目は保存されません。 設定読込

※一時保存した>MLファイルを読み込みます。 ハードウェア構成(メモリ、ディスク等)も、一時保存した時の内容になります。

このウィンドウを閉じる

次へ(構成内容を確認)	導入支援サービスツールに設定した内容を一覧に表示します。
設定の一時保存	導入支援サービスツールに設定した内容をファイル(xml)に一時保存します。 設定を一時保存したい場合に使用します。 このファイルは、「 製造指示用ファイル」ではありません。注意してください。
設定読込	「設定の一時保存」で保存した Excel ファイル (xml)を呼び出します。 ハードウェア構成 (メモリ、ディスクなど)は、一時保存したときの内容となります。
このウィンドウを閉じる	ウィンドウを閉じ、作業を終了します。

・導入支援サービスツール画面のボタン

【製造指示用ファイル出力】 ボタンをクリックすると、TSOLへの製造指示書を出力します。 出力したファイルを、MAGNIA本体の発注と同時に担当部門へお送りください。 製造指示用ファイル出力

[印刷] ボタンをクリックすると、上記の構成内容を印刷します。 必要に応じて、お客様との内容確認などにご利用ください。 印刷 ── お客様署名欄あり ■ 発注情報あり ※「発注情報あり」のチェックを外した場合でも、JOBI賃番は印刷します。

このウィンドウを閉じる

	導入支援サービスツールにて設定した内容を Excel ファイル(xlsx)を出力します。
製造指示用ファイル出力	出力した Excel ファイル(xlsx)が、製造指示用ファイルです。
	<u>注文書と合わせて発注時に提出してください。</u>
	導入支援サービスツールにて設定した内容を印刷します。
印刷	「お客様署名欄あり」をチェックすると、設定内容一覧の前に、お客様署名欄を印刷
	します。
	「発注情報あり]をチェックすると、発注情報(担当営業、担当 SE、顧客名、備考)を 印刷します。
	お客様への確認などにお使いください。
	※両方チェックした場合、署名欄、発注情報、設定内容一覧の順で印刷されます。
このウィンドウを閉じる	ウィンドウを閉じ、作業を終了します。

4 ドライブベイ番号

サーバー本体のドライブベイ番号はご利用のサーバー本体により配列が異なります。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

リファレンス

補足事項全般

サーバー本体の詳細については、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照して事前に確認してください。

- 導入支援サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、本設定シートにて指定された、RAID 設定、および OS インストールをお客様に代わり実施する作業代行サービスです。
- 導入支援サービスは、MAGNIA シリーズ本体と同時に購入してください。
- 内蔵ドライブの混在時は、RAID コントローラーは必須です。必ず手配してください。
- 導入支援ツールをご利用の場合は、Internet Explore7.0以上でのご使用を推奨いたします。
- 製造指示用ファイルは Excel2007 形式で作成しています。これ以前の Excel をお使いのときは、ファイルコンバータ(2007 Microsoft Office system 互換機能パック)をインストールするなどの対応を行ってください。
- 製造指示用ファイルは必ずサーバー本体の注文時に提出してください。製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないことがあります。あらかじめご了承ください。
- 1 つの製造指示用ファイルを複数のサーバー本体で共有することはできません。製造指示用ファイルは、サ ーバー本体と一対で作成してください。
- 設定条件が揃っていない項目については、設定画面を表示しません。構成支援ツールの設定を確認・修正してください。
- 一時保存ファイルを作成した後で、構成支援ツールの内容を一部修正して作成した一時保存ファイルを読み込んでも、修正した内容は反映されません。一時保存ファイルは構成支援ツールの内容を変更・修正した都度に作成してください。
- 「設定の一時保存ファイル」は「製造指示用ファイル」ではありません。
- 構築できる RAID タイプについては、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
- 標準でイベントログクリアをします。
- Windows 以外の OS には対応していません。
- Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 では、論理ディスク0に 300MBの回復パーティション、260MBの EFI システムパーティションと 128MBのシステム予約済みパーティションが作成されます。 なお、システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには表示されません。
- Windows Server 2016 および Windows Storage Server 2016 では、回復パーティションサイズ(450MB), EFI システムパーティションサイズ(100MB)および Microsoft 予約パーティション(16MB)を引いた値となります。なお、Microsoft 予約パーティションは、ディスクの管理には表示されません。
- 環境温度 40℃で動作させる場合、あるいは高温環境対応オプションと同時発注する場合の注意事項についてはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。その他の仕様についてもサーバー本体のシステム構成ガイドを参照ください。
- 増設用 HDD ケージをご使用の場合、他のドライブまたは内蔵バックアップ装置と排他接続の場合があります。詳しい仕様については、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してくだしさい。
- 外装箱に表示された RAID 構成は製造工場出荷時の構成です。製造工場出荷後に本サービスの作業を行うため、製造指示用ファイルにて指定された RAID 構成とは異なる場合があります。
- 導入支援サービスにて提供するサービス内容は当社が提供しているプラットフォームサービス(プラットフォ ームスタートアップサービスおよびサーバーインストールサービス)に全て含まれておりますので、プラットフ ォームサービスを発注する場合には導入支援サービスを発注する必要はありません。
- MAC アドレスの事前連絡は行いません。

- MAGNIA R3520e/R3510e/R3320f における注意事項
 - ※ 導入支援サービスにて RAID 構築対象となるドライブは、フロントドライブケージに搭載されたドライ ブのみとなります。
 - ※ ミドル/リアドライブケージに搭載されたドライブは、工場出荷時の RAID 構成となります。
 - ※ 工場出荷時にフロントドライブケージとミドル/リアドライブケージにまたがって構成された論理ディスクがあった場合、当該論理ディスクを構成していた物理ドライブは下記のようになります。 フロントドライブケージに搭載された物理ドライブ:本サービスにおける RAID 構築対象 ミドル/リアドライブケージに搭載された物理ドライブ:未設定

内蔵ドライブ補足事項

ハードディスクについて

- ハードディスクの容量表記は 1GB=1000³B、1TB=1000⁴B 換算値です。 1GB=1024³B、1TB=1024⁴B 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなります。
- RAID コントローラーの初期値は Write Through です。システムにて性能を重視される場合は、バッテリーまたはフラッシュバックアップユニットを増設した Write Back 運用をおすすめします(RAID コントローラーの設定については装置添付のマニュアルを参照してください)。
 - -Write Through
 - キャッシュメモリへのデータ書き込み時に、同期を取って HDD にデータ書き込みを行う方式。
 - -Write Back

キャッシュメモリへの書き込みが終了した時点でソフトウェアに書き込み完了通知を行い、RAID コントロ ーラーは非同期にキャッシュ上のデータを HDD に書き込む方式。Write Through より一般的にアクセス が速くなるが、キャッシュ上のデータをバックアップするために UPS、バッテリー、フラッシュバックアップユ ニットのいずれかを実装する必要がある。

- OS でのソフトウェア RAID 設定は行いません。
- 論理ドライブ(C:)はプライマリパーティションとなります。
- ブートパーティションサイズの最低値は、OS とサーバー本体に搭載されたメモリ容量により変わります。お 客様が指定できる値は、OS とメモリ容量で決まる最低値以上かつ 1GB 単位です。パーティションサイズの 最低値よりも小さい容量のディスクは指定できません。詳しくは本書の「ブートパーティションとメモリサイズ」 を参照してください。ただし、Windows Storage Server の場合には 51GB 固定となります。
- パーティションのカスタマイズ設定で、論理ディスクの残り全領域を設定したいときは、ディスク容量(数値)
 を入力せずに、「最大容量」を指定してください。
- 論理ドライブの容量に制約はありません。パーティションは GPT 形式となります。なお、MBR 形式は選択できません。
- 導入支援サービスで作成できる論理ドライブ数は4つまでです。
- ドライブのマルチデッドによるシステム障害の発生を低減させる観点から、各ディスクグループのドライブ数は8台以下を目安とした RAID構成をおすすめします。
- 大容量ドライブにて RAID を構築する場合、障害復旧に長時間のリビルドが必要です。その間は冗長性が 失われますので、より信頼性を高めるためにもドライブ2台の障害に対応する RAID6 あるいは RAID60 で のご利用をおすすめします。
- どの RAID グループおよびホットスペアにも属さないディスクは、「無設定」として扱います。
- 異種ドライブの混在時にホットスペアディスクを定義する場合は、同一 RAID グループに異種ドライブが混在 することを防ぐため、同一種類のドライブに対応する「専用ホットスペア(Dedicated Hot Spare)」に設定して ください。「共用ホットスペア(Global Hot Spare)」は設定できません。
- 増設用 800GB PCIe SSD[TN8118-500T]への RAID 設定は行いません。

内蔵ドライブの混在条件について

- サーバー本体の仕様により混在可能なドライブの条件が異なります。事前にサーバー本体の構成ガイドを 参照してください。
- 1 つの RAID グループ内は、同一形番のドライブで構成してください。

ネットワークについて

詳細は、サーバー本体のシステム構成ガイドと各カードに添付のマニュアルを参照してください。

チーミング機能(Teaming 機能/Bonding 機能)

MAGNIAサーバーでは、動作OSに応じたチーミング機能を有します。本機能により、複数のネットワークインターフェースを単一の仮想ネットワークインターフェースとして扱い、その仮想インターフェースにおいて回線二重化機能およびロードバランス機能を実現し、耐障害性の向上やネットワーク負荷分散を提供します。

Windows Server2012, Windows Server2012 R2, Windows Server2016 では OS によるチーミングをサポート します。サポートするネットワークインターフェースとOSの組み合わせについては、サーバー本体のシステム構成 ガイドを参照してください。

補足事項:

- カスタムインストールサービスは、Windows 以外の OS でのチーミング設定はサービスしていません。
- カスタムインストールサービスで設定できるチーミングは1つです。
- チーミング構成するネットワークインターフェースは、同一のネットワークインターフェースでなければなりません。
- 1000BASEのチーミング、10GBASEのチーミングを1システム内で混在させることはできます。この場合は 1システムあたり最大4チームまでとなります。
- 同一チーム内に異なる転送速度のアダプターを混在させることはできません。
- 各カードの詳細は、各カード添付のマニュアルを参照してください。
- サーバー本体 PCI スロットよりも PCI カードの動作性能のほうが高い場合は、サーバー本体 PCI スロット性能で動作します。
- オンボード LAN または LOM カード LAN および LAN カードのチーミング機能について、詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドおよび各カード添付のマニュアルを参照してください。

バンドルソフトウェアについて

- MAGNIA R1310f/T1340f/C1300f において、オンボード RAID、RAID コントローラーをご利用のときは、 RAID 管理ソフトウェア「Universal RAID ユーティリティ(Universal RAID Utility)」をインストールしてください。
- 「ESMPRO/ServerAgentService」では IPv6 機能は使用できません。

サービス仕様について

サービス仕様をよくお読みのうえ、本サービスをご利用ください。

RAID 設定カスタマイズサービス

- サービス対象範囲
 - (1) 本サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、製造指示用ファイルにて指定された、 RAID 設定をお客様に代わり実施する作業代行サービスです。
 - (2) 本サービスの対象は、RAID 構成を有する全モデルの構成です。なお、別途定める BTO に該当しない構成はお受けできません。本サービスは RAID セレクト、カスタムインストールサービスと同時にご注文できません。いずれか一つのご注文になります。
 - (3) お客様はご注文に先立ち、製造指示用ファイルに要求仕様を定義していただき、当社営業にハードウェア と同時に発注していただきます。
 - (4) 本サービスは、お客様の同意を得て実施されます。製造指示用ファイルのお客様サイン欄にサインを頂く ことにより、お客様の同意が得られたものといたします。
 - (5) MAGNIA 本体に添付されておりますリカバリーCD やドライバーメディア等を開封させていただきます。また、インストールに必要なソフトウェアの使用許諾に同意いただくものとします。
 - (6) 指定された設定内容により、MAGNIAを構築し出荷いたします。設定内容は、製造指示用ファイルの項目に限らせていただきます。また、製造指示用ファイルの項目以外の設定は、対象 OS、およびプレインスト ールソフトウェアの既定値とさせていただきます。
 - (7) 本サービスと同時にOSセレクトをご注文いただいている場合には、RAID設定のあとで、本体同梱のサーバー設定支援ソフトを用いて指定 OS をインストールして出荷いたします。その際、ツールや OS のデフォルト値を用います。なお、起動時の画面は OS セレクトにおけるミニセットアップではなく、通常の手動インストール時の起動画面となります。
 - (8) 設定結果は、製品に同梱し出荷します。
 - (9) 本サービスを適用した製品も標準製品と同様の保守サポートを受けられます。

- 注意事項
 - (1) 当社純正以外のオプション部品を使用しているハードウェアへのサービスは、お断りいたします。
 - (2) OS でのソフトウェア RAID 設定は行ないません。
 - (3) OS セレクトを同時にご注文いただいた場合、論理ドライブ(C:)はプライマリパーティションとなります。
 - (4) 本サービスは出荷時1回限りのサービスです。
 - (5) 内蔵ドライブの故障などによりシステムのデータが失われた場合は、お客様ご自身で再構築していただく 必要がございます。
 - (6) 搬入後、速やかに設定の確認をお願いいたします。 本サービスの実施にあたっては万全の注意を払っておりますが、万が一、ご指定の設定内容と異なる設定にて出荷された場合、出荷後一週間以内にご連絡いただいた場合に限り、工場にて正しい設定を行い再出荷いたします。 ただし、すでにお客様にて設定変更や追加インストールなどの作業を行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします。
 - (7) ハードウェア保守、および OS サポートは本サービスに含まれません。
 - (8) 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。 なお、設定後の動作に関しては当社は一切の保証はいたしません。
 - (9) 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象 OS、およびプレインストー ルソフトウェアの既定値とさせていただきます。
 - (10)セキュリティ更新は行なっておりません。必要に応じ、セキュリティの更新を行なってください。
 - (11)本サービスの作業は、必要に応じて当社外に作業委託を行う場合がございます。そのため、識別情報(お 客様サイン欄と発注担当殿ご記入欄)以外の部分に、お客様固有の情報もしくは個人情報を記載された場 合、当社外の担当者に開示される場合があります。あらかじめご了承ください。

カスタムインストールサービス

- サービス対象範囲
 - (1) 本サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、製造指示用ファイルにて指定された、
 RAID 設定、および OS インストールをお客様に代わり実施する作業代行サービスです。
 - (2) 本サービスの対象は、カスタムインストール、RAID構成を有する全モデルで、かつ同時にOSセレクトオプションを指定された構成です。なお、別途定める BTO に該当しない構成はお受けできません。本サービスは RAID セレクト、RAID 設定カスタマイズサービスと同時にご注文できません。いずれか一つのご注文になります。
 - (3) お客様はご注文に先立ち、製造指示用ファイルに要求仕様を定義していただき、当社営業にハードウェア と同時に発注していただきます。
 - (4) 本サービスは、お客様の同意を得て実施されます。製造指示用ファイルのお客様サイン欄にサインを頂く ことにより、お客様の同意が得られたものといたします。
 - (5) MAGNIA 本体に添付されておりますリカバリーCD やドライバーメディア等を開封させていただきます。また、インストールに必要なソフトウェアの使用許諾に同意いただくものとします。
 - (6) 指定された設定内容により、MAGNIA を構築し、その後、本体同梱のサーバー設定支援ソフトを用いて OS をインストールして出荷いたします。設定内容は、製造指示用ファイルの項目に限らせていただきます。
 - (7) 製造指示用ファイルの項目以外の設定は、対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。なお、起動時の画面は OS セレクトにおけるミニセットアップ画面ではなく、通常の手動インストール時の起動画面となります。
 - (8) 設定結果は、製品に同梱し出荷します。
 - (9) 本サービスを適用した製品も標準製品と同様の保守サポートを受けられます。
- 注意事項
 - (1) 当社純正以外のオプション部品を使用しているハードウェアへのサービスは、お断りいたします。
 - (2) OS でのソフトウェア RAID 設定は行ないません。
 - (3) 論理ドライブ(C:)はプライマリパーティションとなります。
 - (4) 本サービスは出荷時1回限りのサービスです。
 - (5) 内蔵ドライブの故障などによりシステムのデータが失われた場合は、お客様ご自身で再構築していただく 必要がございます。
 - (6) 搬入後、速やかに設定の確認をお願いいたします。 本サービスの実施にあたっては万全の注意を払っておりますが、万が一、ご指定の設定内容と異なる設定にて出荷された場合、出荷後一週間以内にご連絡いただいた場合に限り、工場にて正しい設定を行い再出荷いたします。 ただし、すでにお客様にて設定変更や追加インストールなどの作業を行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします。 なお、設定違いに付随する損失(事業利益の損失、事業の中断など)に関して当社は一切責任を負いません。
 - (7) ハードウェア保守、および OS サポートは本サービスに含まれません。
 - (8) 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。 なお、設定後の動作に関しては当社は一切の保証はいたしません。
 - (9) 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象OS、およびプレインストー ルソフトウェアの既定値とさせていただきます。
 - (10)セキュリティ更新は行なっておりません。必要に応じ、セキュリティの更新を行なってください。
 - (11)本サービスの作業は、必要に応じて当社外に作業委託を行う場合がございます。そのため、識別情報(お 客様サイン欄と発注担当殿ご記入欄)以外の部分に、お客様固有の情報もしくは個人情報を記載された場 合、当社外の担当者に開示される場合があります。あらかじめご了承ください。

免責事項

- 導入支援サービスの提供により、お客様または第三者に生じたあらゆる損害について、当社はその一切の責任を負わないものといたします。
- インストールされた OS 自体の不具合、お客様にて設定変更や追加インストール、カスタマイズなどの作業を 行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします。
- 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。なお、設定後の動作に関して、 当社は一切の責任を負わないものとします。
- 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象 OS、およびプレインストール ソフトウェアの既定値とさせていただきます。
- 設定違いに付随する損失(事業利益の損失、事業の中断など)に関して当社は一切責任を負いません。
- インストールに必要なソフトウェアの使用許諾は、同意いただいたものとして作業を行います。あらかじめご了 承ください。
- ハードウェアおよびソフトウェアの保守および OS の操作方法や設定方法などのサポートはいっさいございません。
- ハードウェアの据え付けは本サービスに含みません。
- 本サービスは出荷時 1 回限りのサービスです。内蔵ドライブの故障などによりシステムのデータが失われた 場合は、お客様自身で再構築していただく必要がございます。
- ソフトウェア製品には、かかるソフトウェア用の修正モジュール(サービスパックまたはセキュリティパッチなど) が適用されている場合がありますが、本装置に適用されているものより新しい修正モジュールが当該ソフトウェアの許諾者などからリリースされていることがあります。新しい修正モジュールについては、お客様自らのご 判断と責任においてインストールまたはご使用ください。新しい修正モジュールの動作(インストールを含む)および同修正モジュールの適用によるアプリケーションの動作につき、当社は保証いたしません。新しい修正モジュールに起因する損害につき当社はいっさいの責任を負いかねます。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における 商標または登録商標です。
- ESMPROとUniversal RAID Utility は日本電気株式会社の登録商標です。

掲載の会社名、製品名、サービス名は登録商標または商標として使用されている場合があります。また、記載のシステム名、製品名等には、必ずしも商標表示((R)、TM)を付記していません。

本書について

- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。